



# 高等部 国語科 一題材の実践と振り返り

授業者：徳脇朋子

## 実践事例

指導内容：【領域】聞くこと・話すこと 小学部 3段階

文の中における主語や述語の関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。

教材：『どこでもトリップ』

仕組み：VR動画を見た後、主語と述語のつながりを考えて、場面の様子や状態に応じた主語（場所やもの）を入れて、自分が体験したことを詳しく話す。

自分や友だちが話している様子をタブレット端末で撮影し、その動画を見ることで、場面の様子や状態に応じた主語（場所やもの）を入れて詳しく話すことができたかを友だちや教師と一緒に振り返る。

	題材目標	評価規準
知・技	自分が体験したことを話すときに、主語となるものや場所に応じた事柄を入れて話すと相手に伝わりやすいことがわかり、「〇〇は（が）どのようだ」など、主語を入れて話す	5問中3～5問目で、場面の様子や状態に応じた主語（場所やもの）を入れて話す
思・判・表	自分が体験したことを話すときに、伝えたい場面について考え、主語となる場所やものに応じた事柄を具体的に話す	5問中3～5問目で、伝えたい場面の主述のつながりを考えて、具体的に話す
学び	言葉がもつよさを感じるとともに、相手にわかるように伝えようとする態度を養う	詳しく伝えるための視点が入っていないとき、場所、活動、誰のどれを具体的にするか考え直す

三観点	評価
知識及び技能	「パソコン室でいろんな本が散らかっていました」「ナマケモノが食べ物をナイスキャッチしていました」などと話し、体験した場面の状態に応じた場所や様子に応じたものを入れて話すことができた。
思考力・判断力・表現力等	体験した後、「高等部等の玄関で外靴と中靴がバラバラになっていました」「虹を見ました。色が薄くなったり、深くなったりしていました」と話し、伝えたい場面の様子や状態に応じた主語（場所やもの）を考えて、具体的に話すことができた。
主体的に学習に取り組む態度	話しの内容を文字化したもの①「〇〇先生が隣の教室でiPadを調べていました。手を振りました」「2年生の教室にいました。3年生の教室にはいませんでした」②「高等部等で靴をバラバラにまきました」「高等部の玄関で、外靴と中靴がバラバラになっています」の内容を見比べて、「〇〇先生がない」と言ったり、「高等部等のどこ」と友だちに聞いたりすることができた。




### 様子や状態を表す場所、もの（主語）を入れて具体的に話すための課題（動画）の工夫

望む姿	意図と働きかけ	結果	改善内容とその結果
「何が（場所・もの）どのようだ（状態）」について目を向けて、詳しく話してほしい。 （例） ・部屋にTシャツが散らかった状態を詳しく話す ・燃えるごみの中にペットボトルが入っていたことを話す	「Tシャツが散らかっていた」と様子だけを話した場合には、「どこ（場所）に」と問い、場所を入れて話す必要があることに気づくようにする。	「たたみ終わった洗濯物をタンスにしまっていました。きれいにしまっていると思います」とか「ごみを落として〇〇先生に渡しました」とVR動画の終わりの場面について話をする。	詳しく話してほしいところに焦点を絞るために、課題（動画）を短くすることで、「何が（場所・もの）どのようだ（状態）」について詳しく話すことができるようになった。



### 自分から課題に取り組んだり、動画を見て振り返ったりするための教具の工夫

望む姿	意図と働きかけ	結果	改善内容とその結果
タブレット端末に入った自分の課題（VR動画）を見て、体験したことを友だちに話したり、話した内容の振り返りできるように、体験したことを話す友だちの様子をタブレット端末で撮ってほしい。	プレゼンテーションソフトに課題を順番に入れ、自分で操作して①見る②話す③撮る④ホワイトボードに書くの学習の流れにする。	操作の仕方を覚えて課題を見ることに取り組むが、課題を見た後、教師が声をかけるまで同じ課題を見続けたり、待っていたりする。	課題が終わって次の操作をしたときに、体験したことを友だちに話そうというスライドを入れる、活動の流れを掲示する、撮影ブースを作り、次にすることがわかるようにした。体験が終わったことを友だちに伝え、撮影ブースの前で交代に話して、課題に取り組むようになった。  1. 体験動画を見る 2. 体験したことを話す *友だちの話を記録（撮影）する

## 授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定  
（研究生産物を基に）

学習指導要領の指導内容から段階を決定

題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

題材計画構想

授業構想シートを活用

本時案作成

題材開始

**R研で毎時間の授業の評価・改善**

題材終了

観点別評価の実施

**【R研】  
国語・算数の授業実施日  
に行う、授業の評価や  
改善について話し合う場**

## 次題材に向けて

詳しく話してほしい内容に焦点を絞った課題にすることで、その時間にできてほしい姿が見られるようになり、およそ題材計画通りに授業を進めることができたと考えられる。

動画（例：学校生活で体験していること、実験をしてももの状態が変わるなど）の内容を工夫することで、自分や友だちの課題に興味をもって取り組む姿が見られた。

タブレット端末を使うことで、自分で操作して課題に取り組んだり、課題が終わると、友だちが話す様子を動画で撮ったりすることができた。

友だちの課題（体験した事柄）も興味をもって見れたこと、話している様子をタブレットやテレビですぐに見ることができたことで、詳しく話すことができていたか友だちや教師と一緒に振り返ることができた。

話している動画を見て、教師や友だちと一緒に振り返りをするのができたが、自分たちで振り返りをしやすい、振り返ることを定着させるために、話した内容を文字化したものを見て意見を交わすなどの仕方が必要と考える。文字化での振り返りで出てくるであろう時間がかかる、課題数を確保することが難しい、生徒同士での振り返りが難しいなどの問題に対しては、音声入力ソフトを活用して即時で文字化する、自分たちで操作することで解決できると考える。また、学びを深めていくことができるように、振り返りの視点カードやシートの作成する必要があると考えた。